

# 哲 學 研 究

第 二 十 一 卷 第 五 冊

第 二 百 四 十 二 號

昭 和 十 一 年 五 月 一 日 發 行

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十一年四月廿五日印刷納本(每月一回一日發行)

地 域 的 社 會 圈 と し て の 故 郷 と 郷 土 (承 前)

..... 文 學 士 臼 井 二 尚

正 理 學 派 に 於 け る 量 論

— 現 量 と 比 量 —

..... 文 學 士 松 尾 義 海



京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、 毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、 毎年公開講演會ヲ開ク
- 一、 毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、 委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、 書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	天野貞祐
文學士	岩井勝二郎
文學博士	植田壽藏
文學士	白井二尙
文學博士	小島祐馬
文學博士	木村素衛
文學博士	九鬼周造
文學博士	田邊元
文學士	中井正一
文學士	西谷啓治
文學博士	野上俊夫
文學博士	羽溪了諦
文學博士	波多野精一
文學士	服部英次郎
文學博士	本田義英
文學博士	山内得立

## 前 號 目 次

シェリングの藝術哲學…………… ……………文學士 松 下 武 雄	アリストテレスに於ける認識論的思想の發展…………… ……………商學士 藤 井 義 夫	地域的社會圈としての故郷と郷土（承前）…………… ……………文學士 白 井 二 尚
-------------------------------------	---	--

會 告

- 一、本會へ入會希望者へ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 二、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 三、會費ハ振替口座大阪〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 四、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介ノ新刊書ノ寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
文學部内  
京都哲學會

註 文 規 定

- ◎ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◎ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◎ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- ◎ 特に請求書及領收書等必要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	冊	冊	冊	冊
一	六	十二	冊	冊
冊	冊	冊	冊	冊
金	金	金	金	金
四	四	四	四	四
拾	拾	拾	拾	拾
錢	錢	錢	錢	錢
壹	壹	壹	壹	壹
郵	郵	郵	郵	郵
稅	稅	稅	稅	稅

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十一年四月廿五日印刷納本  
昭和十一年五月一日發行  
第二百四十二號第二十一卷  
第五册

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勤兵衛

印刷者 須磨勤兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三二九五番  
東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入  
販賣所 京都市日本橋區室町四丁目  
内外出版印刷株式會社

賣捌所

(大) (神) (京)  
(阪) (戸) (都)

寶文館 北隆館 東京堂 東海堂  
寶文館 上田屋 盛文館 參文社  
共盛社 川瀨書店 大盛社

不許複製  
禁轉載

# 西哲叢書

田邊元監修

## 刊行の辭

哲學は時代の良心である。過去の傳統を負ひこれを媒介としながら却つて傳統を超えた絶對の立場から當代の文化の當に行くべき方向を批判し自覺せんとするものである。歴史的にして同時に永遠なる精神の自覺のみ始めて能く哲學を成立せしめる。それ故哲學は、一方に於ては歴史社會に屬しながら他方に於て之を超出した個人——「哲學者」を俟たねばならぬ。哲學の教養には、哲學思想の時代的發展を叙する哲學史のみでは全きを得ず、必ず夫々の哲學體系として發展の内に完成を示す個々の哲學者のモノグラフィ——を缺くことが出来ない所以である。本叢書の企圖するところは即ち此缺を補はんとするにある。これによつて過去の先哲の思想は現代のものとなり、現代に哲學する人々の感激の源泉となり生ける指導となるであらう。思想の必要なこと今日の如く甚しきはない。かくの如き時代に於てなほ理性の光明を喪はざらんと欲する人々の伴侶たらんこと、これ本叢書の使命である。

## 第一期刊行

ヘーゲル	高山岩男著
フツセル	下程勇吉著
スピノザ	篁實著
ソクラテス	後藤孝弟著
シェリング	勝田守一著
プラト	長澤信壽著
ベンケルマン	井島勉著
シュライエルマツヘル	渡邊泰三著

全三十二冊 自由分賣

價 各一・三〇 税 各一・四  
 四六クロス 二五〇頁—三〇〇頁  
 各册コロタイプ版口繪肖像畫

(大正五年四月六日)昭和十一年四月廿五日印刷納本(毎月一回)  
 (第三種郵便物認可)昭和十一年五月一日發行(一日發行)

哲學研究 第二百四十二號 定價金四拾錢

# 弘文堂



東京都丸太町一丁目 振替大坂一〇七五  
 東京都神田區駿河臺 振替東京三五〇九

郵税金登録